令和２年 12 月１日発行

かまぼこ

第７６号

発　行　地域力推進蒲田西地区委員会
編　集　地域情報紙編集委員会

わがまちの顔

自転車競技選手 古山（ふるやま） 稀絵（きえ） さん

西蒲田在住、相生小・御園中学校卒業という古山稀絵（一九九七―）さんは、現在、日本体育大学大学院でスポーツバイオメカニスクを専攻されています。

相生小学校の元ＰＴＡ会長＝竹山さん（蓮沼駅横の自転車店主）の話によると、当時、たまたま訪れたブリヂストン自転車の営業マンが、自転車に乗っている中学生の古山さんの素質を見出し、トラック競技に参加することを勧めたのがルーツだということでした。

金メダルと古山稀絵さん

大学在学中には日本体育大学の女子チームのキャプテンとして優勝に貢献した古山選手。その間の海外における成績を追ってみましょう。

二〇一七年、二〇一七―一八ＵＣＩトラックワールドカップ第二戦女子チームパーシュートで史上初の三位に入賞。

二〇一八年、アジア自転車競技選手権大会女子チームパーシュートでは見事に優勝！　タイム＝四分二二秒一三八は、日本及びアジア記録を更新するものでした。

また、昨年のアジア選手権二〇一九では、二人一組のペアで交代しながら走るマディソンで優勝。さらに、アジア選手権二〇二〇ではスクラッチで優勝、個人としてもアジアの女王に輝きました。

古山選手が「私が専門とするトラックレースのチームパーシュートは、チーム四人がチームワークで走る種目です」と言うように、この競技は、四キロメートルを一チーム四名で走ってタイムを競うもので、空気抵抗による減速と疲労を避けるため、順番に先頭交代し、三番目の選手の前輪前端でタイムを計測します。

オリンピックの自転車競技は、トラックレースと、ロードレース、マウンテンバイク、ＢＭＸ（バイシクル・モトクロス）の四種に大別されます。東京大会二〇二〇で最も種目数が多いのは（外側が高い）トラックレースで、チームパーシュート、マディソン、日本発祥のケイリンなど、男女それぞれ六種目が予定されています。

東京大会二〇二〇ではマディソンの日本代表の補欠に選出。「目の前のチケットを逃したことは大変悔しい」でも「いつ出場することになっても万全の状態で対応できるよう、日々練習に励みたい」と決意を新たにしています。

古山選手の更なるご活躍を期待して、皆さんでエールを送りましょう。

（取材　飯嶋委員）

多摩川の渡し

かつて多摩川に橋はなかった！

慶長五年（一六〇〇）、家康が多摩川の六郷に「大橋」（長さ一二〇間＝約二一六ｍ）を架けました。しかし当時は堤防がなく流路自在の〝暴れ川〟として知られた多摩川のこと、架けた橋も洪水時には流失という架設・流失の繰り返し……その費用負担に耐えかねた幕府は、貞享五年（一六八八）の流失を機に、遂に橋の架け替えを断念します。

以降「六郷の渡し」となって、明治七年（一八七四）の再架橋に至るまで一八六年間、多摩川に橋はない状態が続いたのでした。

多摩川に渡しはいくつあったか？

多摩川の渡しは、上流の青梅から羽田付近まで四〇余か所の船による〝渡し跡〟が確認されていますが、ほかにも、水量の少ない冬期だけのものや、対岸の農地に行くための小規模な渡しもあったようです。

そのうち、大田区に含まれるのは？

七か所です。街道筋の「六郷の渡し」や「丸子の渡し」などを除けば、寺社信仰を兼ねた江戸庶民の行楽上の利用が多く、その様子は浮世絵に残されています。

1　羽田の渡し

渡しの運営者の名をとって「六左衛門の渡し」ともいい、その起源は不明ですが、川崎大師参詣の要路でした。

大田区側の跡は、現在の羽田二丁目三二番付近。

2　大師の渡し

開業は明治一〇年（一八七七）。羽田の渡しに対して「新渡し」と呼ばれ、当初農作業のために設けられましたが、川崎大師及び対岸からの穴森稲荷参拝にも便利であり、のち川崎の工場労働者の利用もあって、人力車二台に二、三〇人が乗れる大きな船が使われていたそうです。

大田区側の跡は、現在の本羽田三丁目二三番付近。

3　六郷の渡し

東海道往来の要で、始まりは前述のように貞享五年に遡ります。

常時一〇余隻の船で旅人や荷馬を渡しました。その船の大きさは長さ四間（七・二ｍ）、幅一間半（二・七ｍ）、高さ一尺五寸（〇・四五ｍ）が標準で、船底は平底。馬を乗せる馬船はかなり大きかったようです。船頭は、先端に鋼鉄の石突をつけた竿を川底に差して前に進み、竿の長さは水量に応じて三種類を使い分けました。

番号	名称	廃止年	廃止の理由
1	羽田の渡し	昭和 14 年	大師橋の架設
2	大師の渡し	昭和 14 年	大師橋の架設
3	六郷の渡し	明治　7 年	左内橋（六郷橋の前身）の架設
4	小向の渡し	大正 10 年	都市化
5	矢口の渡し	昭和 24 年	多摩川大橋の架設
6	平間の渡し	昭和　6 年	瓦斯人道橋（ガス橋の前身）の架設
7	丸子の渡し	昭和 10 年	丸子橋の架設

多摩川の渡し（大田区内7か所）番号は河口からの順である

明治七年（一八七四）、地元の鈴木左内によって六郷橋が架けられ、渡船一八六年間の幕を閉じます。しかし、この「左内橋」も四年後に流失。架橋組合などが挑戦しますが流失を繰り返し、橋がないときは船が使用されました。堤防間を結ぶ本格的な六郷橋が完成を見たのは、大正一四年（一九二五）のことです。

当時人気の古川薬師（安養寺）に近く、また、明治元年（一八六八）明治天皇が江戸入りのさい、二三隻の〝船橋〟によって多摩川を渡ったという「明治天皇六郷渡御碑」が六郷橋詰にあります。

大田区側の跡は、現在の仲六郷四丁目二九番付近。

4　小向の渡し

もと大田区側にあった小向村が、多摩川の流れが変わって川崎市側に。飛び地となった大田区側の農地に行くための渡しでした。

川崎市側の跡は、ラジオ電波塔の辺り。大田区側はその対岸。

5　矢口の渡し

鎌倉街道の渡し場として交通の要衝でした。『太平記』に、延文三年（一三五八）、ここで新田義興が討死したとあることから、それ以前に矢口の渡しはあったと考えられます。その場所も今の新田神社付近で、多摩川は今より東へ大

上▼六郷の渡し（広重画）
対岸は川崎宿で旅籠 72 軒といわれた

下▼右＝六郷の渡し跡標識板
（北野天神境内）
中＝矢口の渡し跡碑
（東八幡神社境内）
河原に降りた所に標識版がある
左＝羽田の渡し跡碑
（羽田二丁目）

きく湾曲しており、現在〝跡碑〟のある辺りになったのは江戸中期以降といわれます。

歌舞伎『神霊矢口の渡』により、新田神社の参拝客で賑わった区内最後の渡船場でした。

なお、東急多摩川線「矢口渡」の駅名は、昭和五年（一九三〇）、「矢口」からの改称です。

大田区側の跡は、現在の矢口三丁目一七番付近。

6　平間の渡し

記録によれば、水量の少ない一〇月から三月は仮橋をつくり、渡船場付近を「萩原瀬」と呼んでいたそうです。渡しの始まりはかなり古いと思われ、渡しに繋がる平間街道は池上道とか品川道と呼ばれて、鵜の木光明寺や池上本門寺の参拝にも利用されました。

下平間村の百姓＝軽部家に滞在した大石内蔵助一行が、この渡しを経て江戸に入ったといわれ、また、近郷の農家が野菜を江戸に出荷する道でもありました。

大田区側の跡はガス橋から一〇〇ｍほど下流で、碑の位置は川崎側の中原区上平間三八〇。

7　丸子の渡し

平塚～江戸を結ぶ中原街道にかかり、多摩川の渡しでは最も古いといわれます。

家康の江戸入りや初期の参勤交代にも使われました。何よりも相模国の物産（平塚のお酢や秦野のタバコ、大山の薪炭など）搬入の道で、渡しの船は四隻、ここでは夜間も運航したそうです。一〇月から三月までは橋が架けられ歩きました。

この渡しの共同運営者＝大貫家は岡本かの子の実家で、彼女の短歌が残されています。

多摩川の清く冷くやはらかき
水のこころを誰に語らむ

大田区側の跡は、現在の田園調布本町三一付近。

●　むすび

このように多摩川で「船渡し」に終始したのは〝暴れ川〟に対応するためでした。また、江戸の防備という軍事上の理由があり、さらに火事の多かった江戸へ、上流から伐採した木材を運んだ〝筏の川流し〟に、橋脚が邪魔であったからともいわれます。

なお、橋のない川を渡る場合の方法としては、ほかに、川越人足の助けで肩車や輦台（れんだい）で渡る「徒歩（かち）渡し」、船をつなぐ特例「船橋渡し」がありました。

いずれにせよ、大雨で川が増水した場合〝川留め〟されたのは、皆さんご存知のとおりです。

（取材　山口委員）

ご存知ですか？

読者の皆様へ

●『かまにし17』とは

本紙『かまにし１７』は平成一三（二〇〇一）年九月一日に創刊されました。私たち蒲田西地区の地域情報紙で、この地区には自治会・町会が一七あることを表しています。年四回の発行。

大田区には特別出張所単位で一八の地区があり、各地区がそれぞれ独自の情報紙を発行していますが、本紙の場合はＡ４判（Ａ３判二つ折）・４ページ構成で、次のように編集内容を決めています。

Ｐ１「わがまちの顔」
…一五字×三三行×三段
（表題・写真含む、以下同じ）

Ｐ２〜３「特集」
…一五字×三三行×八段

Ｐ４「ご存知ですか」
…一五字×三三行×三段
（本号は特例です）

●読者の皆様へ、お願い

まず、新型コロナウイルスの影響で、本号の発行が二号分遅れたことをお詫びします。

それはさておき、本紙が創刊以来一九年、七六号をかさねて今日に至るのは読者皆様のおかげと、あらためて感謝するしだいであります。

つきましては過去何回か皆様からの投稿を掲載いたしましたが、さらに皆様の思いを本紙に生かせるように、次のとおりお願いしたいと思います。

読者の皆様のお手元に本紙に掲載希望の原稿やテーマがある場合、所属される自治会・町会選出の本紙編集委員（次掲）にご連絡ください。ご連絡を受けて、どのように掲載するか、また取材方法等についても相談させていただきます。

読者の皆様と本紙が一層繋がることを願っております。

（編集委員会）

●『かまにし17』編集委員

西蒲田一丁目町会　石渡咲子・国廣恒二
西蒲田二・三丁目自治会　森　俊夫
西蒲田四丁目町会　屋代紘征・池貝雅江
西蒲田女塚町会　池田きみ子
西蒲田六丁目自治会　伊藤多佳子・深井英明
蒲田西口町会　柳通勝麿
西蒲田七丁目御園町会　飯嶋宏之・下山恵美子
西蒲田八丁目町会　横山方子
御園自治会　多田鉄男
新蒲田一丁目自治会　伊藤孝一・山口博美
東矢口一丁目町会　小林自治会　佐藤悦子
安方北町会　高橋晴美・近藤邦子
安方南町会　大良美臣・岡　和雄
多摩川二丁目町会　原　哲夫・山田　勉
道塚自治会　横山智恵子・伴野正弘
トミン多摩川二丁目自治会
蒲田西特別出張所　堀江正樹・上管章仁

●訃報

本紙発展にご尽力頂いた副編集長の山﨑修弘氏が７月２日に急逝されました。ご冥福をお祈りします。

就任ごあいさつ

蒲田西特別出張所長
堀江　正樹

本年四月一日付けで出張所長に就任いたしました堀江正樹でございます。

今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響でかつてない状況下でのスタートを迎えました。皆様におかれましては、先を見通せない中でご不安や戸惑いを感じていらっしゃることと存じます。出張所といたしましても、皆様のお気持ちに寄り添いながら、職員一同、全力で地域の安心・安全の実現に向け邁進してまいります。

活気あふれる蒲田西地区で勤務できることは小職の誇りでございます。皆様、どうぞご指導・ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

蒲田西特別出張所管内

人口	男	32,366 人
	女	29,948 人
	計	62,314 人
世帯		36,020 世帯